

# 平和・環境・健康はひとつ

～八雲立つ出雲から陽が昇る～

人間自然科学研究所メールマガジン



## みなさま

### グレートリセット

**行き詰まったグローバル化した世界は、高度に発達したネット社会を活かし、今、意思を持ったネットワークで変えることが出来る時代がきました。**

三大核大国の権益がぶつかる、抑制された対立が顕著になってきたユーラシア大陸の東端・朝鮮半島と日本列島に世界人類史的な大きな役割が回ってきました。

天の時は今、地の利はここ、あとは人の「和」だけです。

人類の今までの歴史と現状を受け止め、中海・宍道湖圏から人類の未来を拓く、八雲立つ出雲で生まれた「和譲」と人間自然科学研究所のHPを活かし、「感謝・感激・感動」「平和・環境・健康」「経済・政治・宗教」「共感・納得・覚醒」を研究・議論・試行錯誤で脳が進化。ここから、夢が芽生え、希望が湧き、知恵が人類の未来を拓くストーリーを提唱「対立から共生の文化」が生まれる「究極のイノベーション（新結合）」が起きる最終段階にはいりました。

ダボス会議でもアフターコロナの世界は、グローバルな危機と、経済の混乱、政治的にも、社会的にも地政学的に究極の状態に突入していることが共有されています。

### 「八雲立つ出雲」の「和譲」から生まれる**逆転の発想**

#### 技術は「テクノロジー」から「メカニカルアート」へ回帰

グローバル社会の中、世界は分業化が進み、低価格、効率化を優先することで、日本のものづくりのチカラが急激に落ちてきたことはみなさんご存知の通りです。

世界に「ものづくり大国」の名を轟かせた日本ですが、内閣府の調査で、世界のGDPに占める日本の割合の推移をみると、1980年に9.8%だったものが、1995年には17.6%まで高まった後、2010年には8.5%になり、ほぼ30年前の位置付けに戻っています。そして、2020年には5.3%、2040年には3.8%、2060年には3.2%まで低下すと予測されています。

コロナによってこの数字はさらに低下することも考えられます。

テクノロジーからメカニカルアートへ今こそ転換すべき時です。

# 日本の「ものづくり技術のダイナミズムをとりもどす」

## メカニカルアートの重要性

日本の産業の不安定さをどう解消するか。日本総合研究所 会長の寺島実郎さんは、マスクひとつつけない、防護服もつけない、輸入に頼る日本の産業界に強い警告を発しています。安全安心国家創造のため、新たな視点から「防災・減災・産業がモノづくり国家の誇りをかけるサバイバル産業となる」と提案されています。

## 水の総合管理システム「やくも水神」と空間価値創造「happy gate 門番」

「水と空気」2つの、永遠のソーシャルビジネス発展のプラットフォームができました。

この経過は[小松電機産業株式会社](#)、[人間自然科学研究所](#) HPに載っています。

今、日本は、人類の戦争を終わりにする人類史上初めての「対立から共生の文化」を産み出す重要な役割を担う時がきました。米露対立に続き、米中対立、38度線が残る朝鮮半島との抑制された究極の対立が続いています。このような状況とコロナ禍と25年の国内外活動の記録映像を背景に、たし算の帰納法・かけ算の演繹法・累乗の弁証法（イノベーション・新結合）を組み合わせ、日本の発祥地ともいわれる連結汽水湖「宍道湖・中海圏」から「**真の地方創生**」がはじまります。

ここ「宍道湖・中海圏」は、潮の満ち引きが、地球・太陽・月の引カバランスでなく、気圧の変化により起きる特別な地域です。

25年前にダイヤモンド社から出版された著書「[母なる中海](#)」は「汽水湖は21世紀文明の子宮」という副題がついています。このコロナ禍の中で人類が進化する「感謝・感激・感動」サイクルを回し、真の「平和・環境・健康」を追求、「経済・宗教・政治」を限りなく一つに近づけるプロセスの中で、新たな価値が生まれ、健康寿命を賜る3つのステージを組み合わせることにより、才能が次々と開花、ひとり一人の健康寿命が延び「対立から共生の文化」が生まれる取り組みです。

## ラフカディオ・ハーンと「開かれた精神」

島根県立短期大学部教授 小泉 凡



一般財団法人人間自然科学研究所が編集された『朝鮮半島と日本列島の使命』には、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が「神戸クロニクル」紙に書いた論説記事の幾篇かが抜粋されています。『怪談』の著者として知られる八雲は、実は人生の大半をジャーナリストとして過ごしました。具体的にはアメリカでの15年余りと日本の神戸時代がそれにあたります。神戸クロニクル社への勤務は、わずか1年未満でしたが、90篇近い論説記事を書き、その中には、日本のみならずロシア・中国・朝鮮半島の未来を展望した文章も少なからずみられます。また、八雲は1894年1月に熊本で行った「極東の将来」という講演の中で、将来的には西洋より東洋が大きな意味をもつ時代が来ること、そして「最も辛抱強い、最も経済的な、最も簡素な生活習慣をもつ民族が勝ち残る」と言っています。それは、「自然と最もよく共生でき、必要最小限の生活で満足できる」人々こそ生存最適者だという信念に基づいている、つまり、「シンプルライフ」と「共生」の維持が日本の将来において最も大切だと考えていたのです。「共生」の思想は21世紀を生きるわれわれにとって大きな意味をもつことは言うまでもありません。

ヨーロッパに生まれ育った八雲は、地球を3分の2周して日本にたどり着きました。それゆえ、多くの異文化体験をしています。子供のころにギリシャの多神教の世界やケルトのアニミズムの世界に魅了され、アメリカではラテンヨーロッパとアフリカ文化の融合に開花したクレオール文化やネイティブ・アメリカンの文化を垣間見、さらに日本ではケルト世界に通じる神道や民間信仰に接し共感しました。そのようにして偏見の少ない多文化意識が形成されていったものと思われます。八雲のいう「共生」とは、異文化間の共生だけではなく、人間と自然との共生や、人間と異界との共生も視野に入れたものでした。人間世界だけで完結してしまうことは、人間の謙虚さや畏怖する心を忘れさせてしまう危険があると思ったからです。そして、多くの怪談を採集し、魂を吹き込んで英語に翻訳したのも、怪談つまり異界と人間が交錯する話には真理(truth)があると考えたからでした。約束・畏怖・秘密・好奇心・愛……など、怪談が発するメッセージには、100年後・200年後の人々もその普遍性に関心をもち続けるに違いないと予測し、そこから学ぶべきことも多くあると考えたのです。今、まさにそのような八雲の思いが再評価される時代が来ているように思われます。

八雲の生誕160年・来日120年にあたる2010年、松江では2つの記念事業が開催されました。ひとつは「ハーンの神在月——全国小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」で、もうひとつはハーンの精神性を造形芸術で世界のアーティストが表現する美術展です。2つの事業に共通する趣旨は、八雲の持つ“Open Mind”つまり「開かれた精神」を現代社会や未来に生かすとすれば、どんな可能性があるかを模索しようというものです。小松社長様には趣旨にご賛同いただき、多大なご協賛を賜りました。

八雲の極東の将来に対する考え方には、小松社長がめざす「共生」「和議」というキーワードと響き合う考え方があるように思われます。一国や一地域のみならず、世界全体を見渡した上で東アジアの未来を考えていくことは非常に大切なことだと思われるからです。

出典：[『朝鮮半島と日本列島の使命』](#)

# 「メカニカルアート・文ジニアネットワーク」へ

あなたの

①関心・②共感・③応援・④協力・⑤参加をお待ちしています

## 浜菜みやこホーム放送

[2020年11月1日 放送 「天路」](#)

[2020年10月25日放送 「朝鮮半島と日本列島の使命」](#)

関連動画 (9分53秒)

朝日ニュースター...よみがえれニッポン対談番組  
ニッポン再生・逆転の発想「隣国とどう付き合うか？」



ハワイ出雲大社



2017年6月6日 ハワイ・アリゾナ記念館訪問、献花、寄付



アルフレッド・K・ロドリゲス氏と名誉団長  
小松千恵子氏の握手の様子

# 対立から共生の文化へ

長い歴史問題から生まれた国家間対立、近年では深刻な米中対立、核・スマートフォンの爆発的普及、世界を覆うコロナ禍、とめどもない通貨政策などが重なり、朝鮮半島と日本列島から究極の危機が始まりかねません。

朝鮮半島の対岸、中海・宍道湖圏域で活動を続けてきた人間自然科学研究所は、「天の時・地の利・人の和」を得て、「対立から共生の文化へ」転換する「平和・環境・健康」「宗教・政治・経済」「感激・感動・覚醒」を深く考察、議論、活動を通じて「天命」へと繋がりました。

朝鮮半島対岸に位置する中海・宍道湖圏域は、核大国の中国・ロシア・アメリカの対立と日本・韓国・北朝鮮の対立に国内の地域間・世代間・貧富の差の拡大・国家の統治不全も重なり、社会不安が急速に拡大しています。

このような状況下に、島根原発三号炉の完成を控えています。

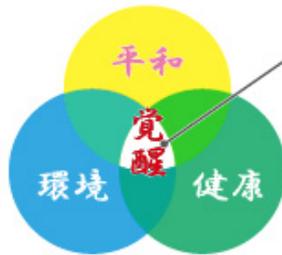
政略(原則)の上位概念の天略(原理)から、**真の地方創生**のストーリーを描くことにより、これに関わる方々の才能が次々と開花し、**真の健康寿命**を賜う流れが始まると信じています。

**平和の定義=戦争の無い状態は言うまでもなく、才能の開花を妨げる社会の文化的・構造的要因も無い状態**

平和は創るものです。平和は、あたりまえのようにこの世に存在するものではありません。人間という生き物の特性を知り、その危うさを自覚するところから学ばなければなりません。

**環境の定義=社会環境（世界人的環境・国内人的環境）と、地球の歴史と、人類の長い営みから生まれる自然環境。**

私達は地球をひとつの生命系として連続して存在しています。自然破壊、経済優先、効率主義の蔓延による危機が迫り、このままでは人類の悲劇は避けて通れないと思われれます。「豊かさの指標を変える」新しい哲学が必要です。そしてその哲学から生まれる新しい事業こそ私達が担うべき事業です。



**「永遠の命を賜る」**

**健康の定義=肉体及び精神（心と脳）が時間（神）の経過と共に、次々と才能が開花する状態。人類は自然界で関係性が無いと生きていけない生命体。価値観が同じで得意領域が違う3人が語り合う状況が必要とする。三人寄れば文殊の知恵。**

人は何のために生きるのか。私は「楽しく愉快地に天寿を全うしたい」と考えています。そのためには自分の才能が開花して光り輝く状態であり続ける生き方を実践し続けるチカラが大切だと考えます。健康寿命を長くする秘訣はまさに自分の中に眠っている才能を呼び起こし鮮やかに開花させることにあると考えています。

## 編集後記

2021年5月に開催予定の「世界経済フォーラム（ダボス会議）」のテーマは、パンデミック後の世界の再建に関する「グレートリセット」です。

グレートリセットとは、協力を通じ、より公正で持続可能かつレジリエンス（適応・回復するチカラ）のある未来のために、経済・社会システムの基盤を緊急に構築する会議として開催されます。

アントニオ・グテーレス国連事務総長は「グレートリセットは我々が直面している人類の悲劇は、我々に警鐘を鳴らしていることを認識させてくれるでしょう。私たちは、パンデミックや気候変動、他の多くの地球規模の変化に直面しても、より平等で包括的かつ持続可能な経済と社会を構築しなければなりません。」と述べています。

常にマーケット創造を繰り返し、社会問題を解決して多くの支持を得てきた小松電機産業にとって大きな試練とチャンスが訪れています。これまで様々な準備をされてきた小松社長の革新性が実を結ぶ時がきています。

人間を真に幸せにする新産業が生まれる瞬間を待ちたいと思います。

編集人 長谷川泰二



**小松電機産業株式会社**



**人間自然科学研究所**

*Copyright © 2020 Komatsu Electric Industry Co.,Ltd., All rights reserved.*